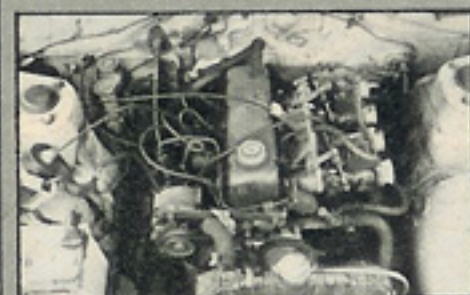
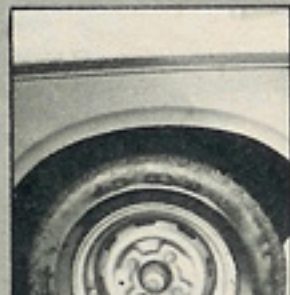




●安田 司サニーGX5 ラップタイム 1分19秒46 区間最高速76.60km/h
デフのファイナルが4.625と低いので最高速はあまり速くはなかった



キャブのセッティングが悪く、低速で3気筒、高速で4気筒という感じだ。セッティングでもっと良くなるはず



ノーマルホイールにBSの209を装着。足回りに問題が……

■エンジン=A12 ■キャブ=ソレックス40φ2連装 ■サス・ショック=ノーマル ■排気系=ノーマル ■デフ=LSD(4.625) ■改造費=15万円位 ■オーナーの一言=いずれこのクルマは、ダートマシンにするつもりですが、なにせお金がないものですから……



▲メタアンダー、ドアンダーでかなりてこずった安田サニー

か、LSDが装備されているためかメタアンダーで、かなり運転しにくかった。晴れた日はどうかわからないが、また6000回転位でキャブがもたつくのが気になるナ」とアドバイス。

メタアンダーの原因はどうやら足回りがノーマルのままでLSDを装着しているからと思われる。

いずれダートマシンに改造するつもりでも、キャブのセッティングと足回りの強化は早急に行なうようアドバイス。

「下から上までよく回るエンジンは申し分ないネ」と、エンジンを評価された前畑クンのスカGだが……

「でもシャコタンがちょっと気に入らないナ。やっぱりはたから見て何もやってないようなクルマが、シブイと思うんだけれども、どう？」

レース用のサスは必要ないし、ノーマルのサスに低圧ガスショックがベスト、というのが館選手の意見だ。

また、「本人も気が付いていることだが、ハンドル回りが少しおかしいナ。ギアボックスがいかれてるんじゃない。ハンドル回りの故障は事故につながるおそれがあるので、早急に修理しろヨ」と注意してくれた。

前畑クンと同様に車高の低さを指摘された佐原クンのスカGには、「あのクルマはレーシングカー並だ」と、館選手もビックリしていた。

「ギアが少しハイギアードなの



●堀 忠志ブルーバード ドライバー家谷和宏 ラップタイム1分20秒93
区間最高速 78.26km/h 室内も軽量化されたフルチューニング車



排ガス検査もOKなくらい完全調整されたソレックスキャブ
推定170馬力以上は出ている



コースによってタイヤは選定される。今回はDL・SP44R

■エンジン=L18改(1910cc) ■キャブ=ソレックス44φ2連装 ■カム=コースによって75度と80度のカムを使用 ■排気系=純正タコ足+50φストレーマフラー ■サス=F・R共純正サス ■ショック=F・R共TRDショック ■ホイール=ミニライト ■改造費=145万円

で、このサーキットにはまったく合っていないナ。まあ、それはストリートユースだから無理もないけど、まさに羊の皮を被った狼という感じだ。でも、下からのトルクを出した方がより乗りやすくなるゾ」

また、「ハイパワーの割にSP44のタイヤじゃ危ないので、もう少し良いタイヤが欲しいね。でも、それより、リアの1巻きき切断了したスプリングとコニと

のショックのマッチングは最悪だゾ。リアの安定が悪く、ハズミ過ぎる」と、前畑クンと同様ノーマルサスと低圧のガスショックの組み合わせを勧める。

「自分でいろいろとタイヤのセッティングを研究することはいいことだ」とほめられた諏訪クンのサバンナRX-3。

「ちょっと堅過ぎると思うけれど、今日のコンディションではいちばん乗りやすくコントロール

